

ウェルネス・アクションつる

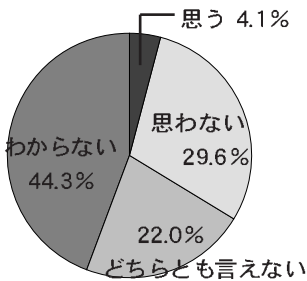


ふれあい体験事業
 ↳地域の高齢者とのふれあい

昨年11月17日に思春期保健福祉体験事業を禾生第一小学校と共同で行ないました。地域の高齢者を小学校に招き、おじいちゃんやおばあちゃんから昔の話を聞いたり、昔の遊びを教えてもらいながら一緒に楽しい時間を過ごしました。事前に高齢者の体と心の学習をし、高齢者体験セットで実際に体験をしていた保健委員15名は高齢者の体のことがよく理解できたようでした。当日も高齢者の歩幅に合わせて歩いたり、高齢者にわかりやすいように話をしていました。

近年、異世代と交流する機会がめっきり少なくなっていると感じている方も多いようです。この「ふれあいの集い」を通して、町で会ってもあいさつをするなど交流の輪が広がり、「つながり」と「おもいやり」を持って接するきっかけづくりが出来ればと考えます。

異世代間と交流する機会があると思う人の割合



「年をとるってどんなこと」 体験と交流をおして

禾生第一小学校 養護教諭 渡辺 信子

人間は誰でも年をとる。体は「老化現象」により色々不便な所は出てくるが、その反面生活の知恵や知識は学ぶべきものが多い。

核家族化が進み、お年寄りとの触れあいが少なくなった子どもたちに「年をとる」ということを学習させることで、お年寄りをいたわる心と、尊敬する気持ちを持たせたいと保健委員会の活動として計画した。内容は、「年をとると体はどう変化するのか」の学習と「高齢者体験グッズ」を使用しての体験をした上で、地域のお年寄りとの交流を実施した。

昔の生活や学校の様子、健康法、生きがいなどのお話を聞いた昔の遊びを教えていただいたりしたが、普段と違う、ゆったりとして穏やかな時間が流れたような気がした。

とかく現代は効率を重んじ、人と人との関係も希薄になりがち。そんな時代だからこそ、時には立ち止まり、先輩の言葉に耳を傾けたり、世代を越えた触れ合いを持つことが大切なのではないかと感じた。お年寄りの「人の痛みのわかる人になってほしい」「自分だけで悩まないで、周りの大人に相談してほしい」という言葉が印象的だった。

「お年寄りとのふれあい学習をして」 6年 山本 裕子

お年寄りの皆さんにお話をきくと、今は昔と比べるととても便利になったけど、便利すぎてついていけないと言っていました。

昔の学校は給食がなかったので、家に帰って食べたり、悪いことをするとバケツを持って廊下に立たされたそうです。

私たちにどんな大人になってほしいですかときいたら「思いやりのある優しい人になってほしい」と言っていました。

お年寄りは、足が不自由になったり、目が見えにくくなることわかったので、困っていたら手助けしたいと思いました。

「お年寄りとのふれあい学習をおして」 5年 天野 雄斗

おじいさん、おばあさんとふれあってとてもおもしろかったです。特におもしろかったのは、いろいろ質問したことです。とても意見がたくさん出ました。遊びはけん玉を教えてもらいました。うまく入らなくてくやしかったです。お年寄りはまだすごい元気がありそうでした。今度会ったら元気にあいさつしたいと思いました。いい経験になりました。